



## 第27回札幌くらぶサロン

### 初冬の宵 馥郁たるヴァイオリンと美酒に酔う

ここ数年、札幌合唱団の進化と深化が止まらない。フォーレ、ヴェルディ、モーツァルトの3大レクイエムを見事に歌い上げ、今夏のPMFに於いては「マーラー」千人の交響曲」での神憑り的な大合唱、先日のヨハネ受難曲での慈愛溢れる歌声は記憶に新しいところである。更には年末の第九、来期のドイツレクイエムと留まる所を知らないのが札幌合唱団である。第27回札幌くらぶサロン

ノ伴奏はサロンではもうお馴染み、各ソリストから絶大な信頼を得ている永沼絵里香さん。曲の様式、国籍そして作曲家等に捉われないこのプログラミングに好感を抱いて、私は勝手に「赤間さゆらが今弾きたい曲7選！」と命名した。

第2部は文字通り挨拶代わりのエルガー「愛の挨拶」で始まり、オケメンパーが絶賛したという衝撃のオーディションを経て、入団後メキメキと頭角を現し、ソロに室内楽にとオケ以外でも大活躍の赤間さゆらさんが満を持しての登場である。ピアノ

曲間に「自身の曲に対する想いを語り、2曲目の「シヤコンヌ」では毅然とした荘厳さの中に時折現れる喜怒哀楽の表現力に聴く者の心をガツチリ鷲掴みにした。4曲目の「ユーモレスク」はエリシユカ先生への追悼の意を込めて演奏された。冒頭の緩やかな出だしから、リズムミカルかつコミカルな主部とボヘミアの哀愁を感じさせる中間部の旋律の対比は、あたかもエリシユカ先生の陽気な一面と志半ばで引退を余儀なくされた悲しくも切ない想いが蘇って来るようだった。

「愛の挨拶」で始まったミニコンサート

考が巡るようになり、この場で新たな気持ちで弾ける事がすごく嬉しい」とおっしゃっていた。この言葉に私はいたく感動し、それと同時に聴き手側もその時々々の出来事に左右されながら、時の流れによって曲に対する想いが様々に変化して行く事を感じた一瞬で、強い共感と共に奏者と聴衆の一体感が生まれるのを感じ取った方も多いのではなからうか。

ラストのラヴェル「ツィガーヌ」では学生時代に試験の課題曲として対峙した時の苦悩を思いながら、「あの時はいかに試験に受かる様に弾くかを主眼としていたが、時を経た今は曲想の解釈や聴き手への想いに加えて

アンコールの「チヤルダッシュ」の後、割れんばかりの拍手とブラボーの中、舞台は第3部の交流パーティーへ！

会員／吉川宗男



札幌合唱団指導者大嶋恵人さん

「アトリエ」さんのバラエティに富んだ、美味しいお料理が供された。さゆらさん、永沼さんを交え、次回1月18日(土)の札幌くらぶサロンに出演が決定しているフルートの川口晃さん、更にはご自身のリサイタルの案内を兼ねていらつしゃついていたヴァイオリンの飯村真理さん、ヴァイオラの青木晃一さんも参加されて、大いに食べ、飲み、語り、大盛況のうちに閉会となった。



「愛の挨拶」で始まったミニコンサート

今回も暮らしの



イラスト／四宮皓子

1月～3月 定期演奏会 名曲シリーズ

## 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三（札幌くらぶ顧問）



マティアス・パーメルト

たものである。ハンガリーのエステルハージ家で、この姉妹にピアノを教えた際、妹のカロリーネのための練習曲として作曲された。その素朴な楽想ながら繊細な技巧を要するピアノ曲は現在でもよく演奏されている。

作曲家の死後、1世紀あまりの歳月を経て、ウィーンの楽友協会の資料の中からこの曲の楽譜が発見された。1931年5月にウニヴェルザール出版社から依頼を受けたウエルベリンは、原曲のロマンチックな歌謡性を生かしながら、心が癒されるようなやさしい響きで管弦楽のための編曲をしている。

だが、おそらく予約演奏会のために書かれたものと考えられる。いずれにしてもこの3大交響曲は、交響曲史上奇跡的な結晶と言わなければならない。中々もつとも明るく優美な響きを湛えているのが第39番。第1楽章は「リッツ交響曲」以来、交響曲にゆるやかな序奏を置いた試みが、いっそう高い完成度で進化している。序奏後の作曲者得意の「歌うアレグロ」が流れだし、明朗で優美な旋律が流麗に駆け抜けていく。心を癒してくれるように感じる。第2楽章は、短調部分で激しい情感を抱きながら、再び穏やかさが戻ってくる。第3楽章は、堂々としたメヌエットの壮麗さに挟まれたトリオが至高の美しさを感じさせ、完璧ともいえる構成美を持つ終楽章が、躍動する音楽の世界を繰り広げていく。

## ■モーツァルト

## 交響曲第39番

モーツァルトの最後の3大交響曲は、1788年夏の約三ヶ月間という短期間で立て続けに作曲された。どのような目で作曲されたかは、現在も謎

## ■ベートーヴェン

## 交響曲第7番

躍動的な楽想を持つこの曲は、初演から好評で何度も再演

されるほど人気が高かった。そのためベートーヴェン作品にはめずらしく初版から総譜とパート譜とが同時に発行されている。その特徴的な弦楽のリズムは、「のだめカンタービレ」でもすっかり馴染み。ベートーヴェンは、かつて無いほどリズムについて楽譜に細かな指示を書き込み、テヌートとスタッカーの違いを強調させている。第

1楽章などは、ひとつのリズム形で押し通すという斬新さだ。この曲は、そう言った面で舞曲性が強く、後にワーグナーが「舞踏の神格化」と言ったことは有名。札幌弦楽部の峻烈なボーイングが、聴けるかも知れない。さらに第2楽章に象徴されるカンタービレな主題が、この作品に劇的な効果を生んでいる。

のための「エピタフ」も作曲している。

当時37歳だったベートーヴェンは、一ヶ月間ほどでヴァイオリン協奏曲を書き上げた。ただ、コンサート直前の完成だったため、クレメントは、ほぼ初見然で演奏したと言われている。協奏曲の評価は二分され、「脈絡のない展開や、品のない音型の執拗な反復」と指摘するものまであった。超絶技巧的な曲が持たはやされていた当時の観衆には、やや地味に聞こえたのかもしれない。この協奏曲をピアノ版で編曲することを勧めたのもクレメントで、ベートーヴェンは、ヴァイオリン独奏の改訂と並行して、2年後ピアノ版も完成させた。ピアノ版の大きな特徴は、作曲家自身が3つの楽章ともカデンツァを書き、特に第1楽章ではティンパニがピアノと絡んでいることだ。ヴァイオリン協奏曲と聴き比べてみるのも面白いだろう。

第627回定期演奏会  
3月13日(金) 19:00  
14日(土) 14:00  
指揮とピアノ  
オリ・ムストネン

## ■ラウタヴァアラ

フランツ・リストへの  
オマージュ

ラウタヴァアラは、フィンランドを代表する現代音楽の作曲家。札幌は、昨年の「鳥と管弦

楽のための協奏曲（「カントゥス・アルティクス（北の歌）」など、度々彼の作品を取り上げている。音楽での「オマージュ」とは、尊敬する作曲家の作風を取り入れたものと解釈して良いのではないか。ラウタヴァアラは、リストの他に「コダーイへのオマージュ」や「ペラ・バルトック

## ■ベートーヴェン

ピアノ協奏曲二長調  
（作曲家自身による  
ヴァイオリン協奏曲の編曲版）

アン・デア・ウィーン劇場のコンサート・マスターだった名ヴァイオリニスト、フランツ・ヨーゼフ・クレメントの委嘱を受け、

第626回定期演奏会  
1月31日(金) 19:00  
2月1日(土) 14:00  
指揮 マティアス・パーメルト

## ■シューベルト

ドイツ舞曲  
（ウエーベルン編）

原曲は、シューベルトがレントラー、ワルツ、エコセーズといった南ドイツとオーストリアの三拍子による舞曲を鍵盤楽器のための「6つのドイツ舞曲」と題して芸術的な音楽に高め作曲し

たものである。ハンガリーのエステルハージ家で、この姉妹にピアノを教えた際、妹のカロリーネのための練習曲として作曲された。その素朴な楽想ながら繊細な技巧を要するピアノ曲は現在でもよく演奏されている。



オリ・ムストネン

©Heikki Tuuli

### ■シベリウス

#### 交響曲第2番

筆者は、北欧へはスウェーデンまでしか行ったことがなく、フィンランドの豊かな自然に触れたことがないのだが、なぜかこの曲を聴くと、その特異な風土の感覚に浸ることが出来る。たぶんフィンランドのイメージが北海道の清澄で冷たい外気と重なるからなのだろうか。それほどに北欧らしい雰囲気を持った交響曲第2番なのだが、シベリウスはこの曲のほとんどを旅先であるイタリアのラバッコと

フィレンツェで書いている。その滞在は、暖かな太陽の日差しを受けた温暖な保養地だったようだ。しかし、フィナーレのコーダが発想のきっかけでつくられたこの作品は、彼の交響曲の中でも北欧の風土を内在させた、最も親しまれている作品であることに間違いはないだろう。



広上 淳一

### ■伊福部昭

#### 日本狂詩曲

膨大な映画音楽を作曲した伊福部昭は、純音楽でも日本人作曲家として世界ではじめて認められた。その記念すべき作品が「日本狂詩曲」。この作品は、彼が21歳のときの作品で、チェレブニン賞に見事第一位となり昭和11年ポストンで初演され、彼の名は国際的なものとなった。

この曲は、ヴァイオリンを小脇に抱え、親指で和音をピツピツイカトしたり、ヴァイオリンの駒の後ろを弾くなど、世界的にもはじめての奏法が用いられるなど画期的な作品なのだ。伊福部の原点をじっくりと聴いて頂きたい。

### ■エネスコ

#### ルーマニア狂詩曲第1番

曲は20曲にのぼる作品集。その中から6曲を選び管弦楽化され、その第2番は同曲の代表作。どの曲も前半はゆったりと重々しく、後半は急速で情熱的なジプシー音楽のチャルダッシュの形式で書かれている。

この第2番は、原曲のピアノ版では「第12番(嬰ハ短調)」にあたる。ドンブラーの華麗な編曲版では「二短調」に移調されているが、今回演奏されるベルグハウスによるシンフォニックな響きの編曲版では「ハ短調」になっている。ゆっくりとしたテンポの「ラッサン」と、快速テンポの「プリスカ」から成る。

エネスコは、モルダヴィア生まれで、ヴァイオリンをウィーンで学び、さらに13歳でパリ音楽院に入学しフォーレなどに作曲を学んだ。彼の代表作である「ルーマニア狂詩曲第1番」は、フランスの近代的作曲手法にルーマニアの国民的要素が結びあつて独特の作風をつくりあげている。

### 名曲シリーズ

2月22日(土) 14:00

指揮 広上 淳一  
ピアノ トーマス・エンコ

### ■アルヴェーン

#### スウェーデン狂詩曲第1番

#### 「夏至の徹夜祭」

シベリウス、ニールセンと言った北欧の作曲家と同時代に生きたアルヴェーンは、自国の民俗音楽を重要な創作の源泉としたスウェーデン近代音楽を代表する作曲家である。3つの楽曲からなる「スウェーデン狂詩曲」

も民俗音楽や愛唱歌を基につくられ、その第1番「真夏の徹夜祭」は、明朗で親しみやすい旋律がテレビのバラエティ番組でも使用されるほど有名な作品。中間部では、コルアングレによつて哀愁に満ちた「夜明けの主題」が奏され、それがホルンへと引き継がれ、やがて管弦楽の総奏へと発展する。

は、実にアメリカのにおいを感じさせてくれる。バINSTAインは「その曲想には深い愛着をおぼえるが、メリケン粉と水を合わせた薄い糊でばらばらの文節を繋げたものにすぎない。作曲というのはつまり旋律を書くこととは違うのだ」と評した。ガーシュイン自身も、そのことを自覚し、翌年に作曲されたピアノ協奏曲では、理論書を読破し、整った形式による上質な作品をつくり上げた。しかし、「ラプンディー」ほど印象深くないのだ。あの唐突だが、しかしリズムミカルで力強いピアノ独奏部は強烈な印象で心に入り込む。

### ■ガーシュウィン

#### ラプンディー・イン・ブルー

クラリネットの特徴的なグリッサンドからはじまるこの曲

### ■リスト

#### ハンガリー狂詩曲第2番

#### (ベルグハウス編)

リストは、シヨパン、シューマン、ブラームスそしてワーグナーなど当時の名だたる音楽家と深い関わりを持ち、彼らの管弦楽作品をピアノ版に編曲するなど、ロマン派音楽における重要な位置にあった。彼は、ピアノの名手であり多くのピアノ作品を残しているが、「ハンガリー狂詩



トーマス・エンコ ©Maxime de Bolivier

民族舞曲たる快速の「ホラ」もフルートで登場、いつ果てるともない熱狂へと盛り上がる。

(写真協力

札幌交響楽団)

楽員さんに興味津津 ⑳

### ヴァイオラ奏者 鈴木勇人さんに聞く

#### ♪ 幼稚園の授業でヴァイオリンを

生まれは埼玉県の入間市で  
す。4歳の時に家の近くにある  
武蔵野音大附属の幼稚園に入り  
ました。その幼稚園では5歳か  
ら音楽の授業があつて、楽器を  
習うことになっていました。親  
が「この子は物覚えが悪いから  
早めにやらせておこう」と思っ  
たらしく、4歳からヴァイオリ  
ンを始めることにな  
りました。

## 技術の先にある高みをめざして



小学校は入間市の  
藤沢小学校でした。  
中高は東村山市にあ  
る中高一貫の私立明

法中学・高等学校という男子校  
に行きました。そこは音楽科が  
あるわけではないのですが、な  
ぜか中学校の音楽の授業でオー  
ケストラがあつて、3年間の成  
果としてビゼーの「アララド  
ール」を演奏しました。部活は何  
もやっていませんでしたが、ヴ  
ァイオリンはずっと続けていま  
した。

**プロフィール**  
4歳からヴァイオリンを始める。洗足学園音楽大  
学を首席で卒業。その後ヴァイオラに転向。同大  
学院修士課程を修了。洗足学園音楽大学在  
学中、特別選抜演奏者に認定。前田記念奨学  
金を授与。室内楽でプロジェクトQ・第8章、第  
9章に出演。第7回横浜国際音楽コンクール  
弦楽器部門第1位。日演連演奏会にて札幌交  
響楽団とコンチェルトを共演。ヴァイオリンを飯  
田奈々子、西田博、三浦章宏の各氏に師事。  
ヴァイオラを岡田伸夫氏に師事。室内楽を木越  
洋、岡田伸夫の各氏に師事。2016年10月札  
幌交響楽団入団。

#### ♪ ヴァイオラに変えて 自分も変わる

高校2年生の時に、僕が習っ  
ていたヴァイオリンの先生に勧  
められて、ジュニア・オケに入り  
ました。「ジュニア・フィルハー  
モニック・オーケストラ東京と

大学はヴァイオリン学科を卒  
業したのですが、4年生の時、何  
かこのままじゃだめだ、音楽的  
アプローチが弱いと思うように

先生が勤めていた洗足学園音楽  
大学に行くことに決まりました。  
その時期に一家で引越しまし  
た。その時期に一家で引越しま  
して東京の王子で祖父母と暮ら  
すようになりました。



小学校低学年の発表会

波風を立てないタイプでし  
た。そのことを知っている先生  
から「おまえ自身が人として変  
わらないとだめだぞ」と言われ  
ました。音楽のことをおっしゃ  
る先生はたくさんいましたが、  
人としての成長を言われた時、  
岡田先生に習ってヴァイオラに転  
向すれば何か変わる気がしま  
した。それともう一つきっかけ  
になった一言は、「譜面が簡単な  
曲ほど上手く聴かせるのは難し  
い」と言われたことです。正直ヴ  
ァイオラはヴァイオリンと比べ  
ると譜面の上ではすごく簡単で  
す。ヴァイオリンだと難しいパ  
ッセージの練習が中心になって  
しましますが、ヴァイオラに変わ  
ればシンプルなメロディーを丁  
寧に練習することに集中できる  
とも思いました。

一流の音楽  
家は皆「自分  
というものを  
持っているけ  
れども、僕は  
自分を出せず  
人と合わせ  
て、



高校の卒業式

大学院にはヴァイオリンで行  
くか、ヴァイオラで行くかいろ  
うの考えましたが、1年間かけて

## ♪ レッスン代わりに病院へ

ところが、その3か月後に先生が自宅の階段で転んで、大きな怪我をしまいました。病院に行くのと、両手両足が動かさず、全くの寝たきりになっていました。院への進学をもう1年空ける事を少し躊躇していた僕に親は、「長い人生の中で1年も2年も大して変わらないから先生を信じて待つていなさい」と言いました。結局2年空ける事になりましたが今となってはすごく良かったと思っています。

先生の色々な話をしたり、先生の頭を掻いたり、ご飯を食べさせたり、とても濃密な時間を過ごせたからです。先生は今では

全部口頭で指導でしたが、ほめられることは基本的にではなく、「これができなかったら次は破門だ」と言われたこと

だと言ってくれます。毎週レッスン代わりに病院に行き、好き嫌いの多い先生の晩ご飯の希望を聞いて買って行くのがレッスン代でした。病院ではさすがに弾くわけにはいかなので、カンパニョーリという基礎練習をテープに録音して持って行ったりしました。リハビリセンターに移ってから個室になったので、テープはやめて、そこで弾きました。レッスンは

## ♪ 「いいんじゃないか 札幌は」

院生の時、東京のオケにエキストラで呼んでもらいましたが、それを続けたいとは思いませんでした。高校の友達は

うのです。札幌を聴いたこともないのに、思い付きなのか何なのか、土地柄が気に入っていたのか。札幌には25歳の7月に受かりましたが、入団は

## ♪ ウディ・アレン 最高！

北海道の夏が気に入っています。暑いのが好きじゃないので、過ごしやすいですし食べ物も美味しくて特にお寿司がいいです。

趣味というものはあんまりないのですが、打楽器の入川君と一緒に楽員仲間を誘って、フットサルをやっています。あとDENというロックバンドが好きです。クラシックの曲は全然分かりませんが、DENの曲であればイントロを聴いたら

興味というものはあんまりないのですが、打楽器の入川君と一緒に楽員仲間を誘って、フットサルをやっています。あとDENというロックバンドが好きです。クラシックの曲は全然分かりませんが、DENの曲であればイントロを聴いたら



岡田先生の「自宅」

「落ち着け。東京がすべてじゃないし、焦らない方がいい。受けるな、受けるな」と。それなのに、なぜか札幌を受ける時は、「いいんじゃないか、札幌は」と言



Phot by SUZUKI

興味というものはあんまりないのですが、打楽器の入川君と一緒に楽員仲間を誘って、フットサルをやっています。あとDENというロックバンドが好きです。クラシックの曲は全然分かりませんが、DENの曲であればイントロを聴いたら



文化庁巡回公演郡山で 札幌メンバーと

けですぐに分かります。それと映画監督のウディ・アレン、人の心理と物事の本質をととてもよく知っている彼の作品が好きです。作品は50本くらいあります。が、ほぼ見ています。すごい昔の『マンハッタン』という白黒の

## ♪ 自分を高めるためにもリサイタルを

札幌は多くの方に支えられていて、大変恵まれていると思います。東京の忙しいオケを知っているのが札幌のスケジュールを見た時はびっくりしました。いずれはリサイタルもやりたいと思っています。オケだと自分の音があまり聞こえないので、一人で曲をさらっている、自分の音が汚くなっているなあと思うことがあります。室内楽など、演奏する人数が減れば減るほど自分の音がよく聞こえ、演奏に対する自分の自由度が増すことになりま

す。これは大切なことだと思っていますので、積極的に室内楽に取り組んでいます。何年かに一度は、自分を高められる場所と時間を作らなくてはと思っています。以前に先生から「お前、何にやりたいんだ？」と聞かれたことがあります。僕が「オケに入りたい」くらいな軽い返事したら、「なぜ、世界を目指さないんだ」と言われました。その時は

映画があるんですが、去年、ニューヨークへ行った時、映画と同じところで白黒の写真を撮ってきました。好きな作品は、『アン・ホール』『ウディ・アレンの重罪と軽罪』『ミッドナイト・イン・パリ』です。

担当／中居・村山・島田・塚田

第13回JOFC総会に参加して

終始 アット・ホームな雰囲気

なじみの顔ぶれが多かったこともあって、JOFC仙台総会一連の行事は終始アット・ホームな雰囲気にも包まれた。8団体からの参加者は居心地のよい時間を享受することができた。

幹事会のあと開かれた総会では(11月23日)、長島榮一仙台フィルハーモニークラブ会長の歓迎挨拶、上田文雄JOFC会長の挨拶、郡和子仙台市長の来賓挨拶に続き、以下の議案について審議がなされた。



上田 JOFC 会長

第1議案「JOFC役員体制の刷新について」では会長職の取り扱い、幹事長の交代、事務局長の交代の三点が検討された。その結果、会長職については現会長が任期まで職を継続すること、幹事長については山響ファンクラブの加藤顧問と西川現幹事長が今後の方針を協議すること、事務局長については継続して審議されるべきことが確認された。

仙台フィルメンバの歓迎演奏



第2議案「2018年9月5日北海道胆振東部震災支援への報告について」

報告については、昨年の札幌総会での提起に基づいて集められた支援金の用途について、報告と感謝が述べられた。

第3議案では、総会は実行委員会形式で執り行われ、開催地のファンクラブがそれを主導する旨意思統一がなされた。

第4議案「次年度総会開催地について」は山響ファンクラブが2020年度総会を担当することを承認するとともに、2021年度に関しては群響ファンクラブを予定候補とした。



高関健氏も交流会に

参加者にとって大きな楽しみであった、仙台フィルハーモニー管弦楽団の第332回定期演奏会。会場の音響にはいくつか注文を出したかったものの、演奏自体が醸し出す暖かい雰囲気にとことん心が和んだ。難解で堅物としての印象が強かったストラヴィンスキーの楽曲(バレエ音楽「カルタ遊び」と3楽章の交響曲)が完全に古典となったようなアット・ホームの佇まい、

極度の緊張を強いる20世紀音楽の気難しさはどこへ行ったのやら、固定観念を払拭された感激に浸った。指揮者高関健氏の手綱さばきに拍手喝采である。仙台フィルの二人の弦楽器奏者の歓迎演奏で始まり、高関健氏も参加した全国交流会と二次会の真にもアット・ホームの空気が満ち溢れていた。

セプトが強い説得力を持った、山形交響楽団第280回定期演奏会も末永く心に残る思い出となった。モーツァルトの第40番の交響曲第3楽章トリオでの、さらに「英雄」交響曲スケルツォでのナチュラル・ホルンの牧歌的な響きは正にアット・ホームの極みである。来年も楽しみ。

札響厚真公演

復興への思いを込めて

あの大地震から一年が経ちました。去る9月15日に被災地復興支援として「札幌交響楽団厚真公演」が行われ、それを聴きに行ってきました。地震で被災した方々の為に復興支援で何かできればという思いで札幌を出発。演奏会場の「厚真スポーツセンター」到着までに、ししゃもラーメンやハスカップアイスクリームなど地元名産品の美味しいもので腹ごしらえ。会場に着くと札響くらぶの仲間が他にもたくさん集まっています。みんなのお目当ては今日の指揮者の松本シュリーヒト君かな? 貴公子のような立ち姿で奏でられる素晴らしい音楽、そして25歳とは思えない堂々とした指揮っ

ぶり、まさに期待をはるかに超える札響の星でした。当日の演奏曲目はバッハの「G線上のアリア」、シベリウスの「カレリア」組曲と交響詩「フィンランディア」、ベートーヴェンの交響曲第7番でしたが、指揮者からどのような思いでこれらの曲を選んだのか丁寧にお話してくれました。参加されていた被災地の方々の中にその復興への思いのこもった演奏が届けられたのではないでしょうか。「札幌のシベリウスはやっぱり日本一だな」と感じた素晴らしい演奏会でした。

当日のプログラムに「本日の被災地復興支援公演の開催に向けて、札響くらぶ様を通じて、日本プロオーケストラファンクラブ



楽器ケースも反響板

「ケストラファンからの支援も被災地の方々に届けられている事や音楽は無くしてはならないものである」という事を改めて確認しました。いつものホールとは違うスポーツセンターでオーケストラのコンサートを見たり聴いたりする事はあまり有りませんが、体験してみても分かった素晴らしいことがたくさんありました。まず指揮者も楽員も観客も同じ高さに居るものすごく距離が近い! 気になっていた音もコントラバスのケースなどを反響板として後方に置いているのでなかなか良い! そして何よりも札幌ファンとしてのピックリは、楽屋がないので開演前の楽員たちのおしゃべりしている様子やお菓子を食べてお茶を飲んでいる姿などの日常も見ることが出来る付加価値! いろいろなメリットが有る地方公演はもっともっと応援に行かなければ... 町の宣伝不足なのか、聴衆が少なかつたのがちよつと残念でした。 帰りに「道の駅あびら」で厚真ジンギスカンを買って帰宅後に美味しくいただき、まさに祈りと音楽と被災地名産品を食した復興支援の一日でした。

会員/上野文博

## 研修生としてドイツへ

みなさま、大変ご無沙汰しております。札幌首席ホルン奏者の山田圭祐です。2018年9月から2019年8月まで、文化庁新進芸術家海外研修制度の研修生としてドイツのミュンヘンに行っていました。師事したのはバイエルン放送響の首席ホルン奏者エリック・テルヴィリガーさんです。1年間という限られた時間ではありませんが、ここではご紹介しきれないくらいたくさん素晴らしい経験をさせていただきました。その中から今回は先生と話した中で、読者の方々にも関係があつて、なおかつ私の印象に残っている二つのエピソードを、研修

中の出来事としてこれからの抱負のひとつとしてご紹介させていただきます。どうぞと思います。

まず一つ目はちよつと嬉しい気持ちになった「聴衆」に関してのお話です。

先生が2016年にベルリンフィルの来日公演にエキストラで出演した時のことを話してくれました。指揮者はサイモン・ラトルで、東京のサントリーホールでベートーヴェンの交響曲第9番を演奏したそうです。先生はこの時の演奏を一生忘れられないくらい素晴らしいものだったと言っていました。

先生いわく「日本の聴衆は静かだけどいい演奏にはすごく敏感で、この時も聴衆の感動と興奮が手に取るように伝わってきて喜びを共有できたことがとても幸せだった。君たち日本人は言葉も違うし文化も違うけれど、クラシック音楽を好きな人が多いし、その美しさを感じてる力はヨーロッパの人よりも優れているかもね」と語ってくれました。

日本の聴衆を褒めてもらったことが純粹に嬉しかったですし、私自身もそんな風に感動と興奮を聴衆の方々と共有できるよう

になろうと心に強く誓ったのを覚えています。

もう一つは一番傷ついた「オーケストラ演奏」に関してのお話です。先生がかつて来日した際に日本のオーケストラの演奏を聴きに行ったのですが、その感想は「退屈だった。技術はあつても表現が平坦で面白くない」とのことでした。何年前の話でこのオーケストラかは言及していません

### ロビーコンサート

#### 「オーパス・ナンバー・ズー」?

ルチアーノ・ベリオは1925年生まれのイタリアの作曲家です。オルガニストの父、祖父を持つ、最初は器楽奏者ピアノ・クラリネットを志していましたが、徴兵時の手の負傷により、作曲家へ転向しました。今日では主に、独奏器楽及び声楽のための「セクエンツァ」シリーズで、その名が知られています。「オーパス・ナンバー・ズー」は、彼の1950年の作品です。もともとはクラリネット2本、ホルン2本と朗読のための作品を1951年に木管五重奏用に改定したものです。1970年に朗読にR・レヴァインの寓話を採用し、現在の版となりました。

ロビーコンサートの実演に触

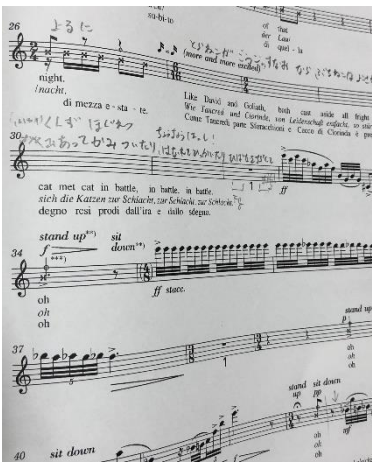
ることもひしひしと感じました。大口を叩くようではありませんが、この悔しさをバネに、そして今回↓郷戸廉/横坂源(本公演のソリストたち)。余談ですが、今回のプログラムは4月定期のロビーコンサートでの弦楽器の若手たちによる「ダルムシュタットの幼稚園」に対抗すべく、木管の最若手メンバーたちで演奏しました。どちらの曲もロビーコンサートの距離感だからこそ楽しめる作品だと思えます。(ステージのように遠いところだと、見えないし、「聞こえ」ません。)もちろん、このようなチャレンジに抵抗なくお付き合いいただけたお客様あつてのことですが、また新たな挑戦を見かけた時は暖かく見守っていただけで幸いです!

調子で進む音楽とは裏腹に少し大人向け内容となつています。谷川俊太郎氏が日本語に訳したものが大変優れており、「吹き替え版」はもっぱら彼の訳詞が使われます。(Opus No.20を「作品番号 獣番」と訳すあたりにはセンスを感じます。)また、「ねことねこ」では、固有名詞が使われており、その都度内容をアレンジするのが通例となつています。今回は札幌オジリナルアレンジとして次の部分を変えてみました。みなさん全てわかりましたか?

札幌ホルン首席奏者  
山田圭祐

東京のど真ん中↓すすきののど真ん中、下北沢まで知られた↓稚内まで知られた、パルコ

### セリフと演技の指示がある楽譜



札幌フルート副首席奏者  
川口 晃



テルヴィリガー先生と

## 敷居の高さを取り払って



妙夢コンサート 7月19日 JRタワー西コンコースで

クラシック、ジャズ、ポップス、民謡など多彩な音楽を演奏しながら、時には歌い、踊り、叫び、泣き…何でもありのエンターテインメント。しかも演奏技術は超一流。そんな『ムノツイル・プラス』に出会ったのは大学生の時でした。初めて聴いた時、衝撃を受けたのを今でも覚えています。そして彼らとの出会いは、今の自分の音楽家人生に多大なる影響を与えています。ムノツイル・プラスの始まりはウィーンの居酒屋「ムノツイル・イン」でした。彼らはウィーンの音楽大学でクラシックを学ぶ傍ら、皆を楽しませるために即興

で演奏し、そして自分達も楽しんでいました。そんな居酒屋から始まった彼らの演奏は段々と規模を拡大していき、今では世界を渡り歩く人気グループとなりました。自分もクラシック音楽を勉強して、今はオーケストラに入りましたが、彼らのようなエンターテインメントへの憧れは消えていません。自分達の演奏をたくさんの方に聴いて頂きたいと思っっているのですが、「クラシックは敷居が高いから」「行ってみたいけど、どの演奏会に行っても良いか分からなくて…」という話を良く聞きます。思っている以上に、ホールに足を運んで頂くのはハードルが高いのだなと実感するのです。この現状を打破するためには、まずはたくさんの方々に演奏を聴いて頂けるようにこちらから出向いていくのが良いのでは、と思っっています。札幌の業務の中には、少数のアンサンブルで色々な場所に行つて演奏する、というものもあります。先日も札幌駅で演奏させて頂いたのですが、たくさんの方が行き交う中で演奏するのはとても気持ち良かったです。そこで演奏を聴いた人の心を少しでも動かす

事ができたら、ホールに足を運んで頂けるきっかけになるのでは、と思っっています。ムノツイル・プラスのようなエンターテインメントを、色々な場所で行くさんの方にお届けしつつ、クラシック音楽の敷居の高さを取り払い、クラシック音楽の素晴らしさも伝える。これが今の自分の夢です。

「ヨハネ受難曲はライプツィヒで書かれたものではありませんが、バッハが聖トーマス教会のカントルに就任するにあたって、自身の地位を確固とするため心血を注いで作ったものです。後年のマタイ受難曲に比べ、激しく、野心溢れる作品なのです。この曲はライプツィヒから皆さんへの贈り物です。皆さんは良くやっただと思っいます。」

これは合唱団の打ち上げ席でのマエストロ・ボンマー（以下ボンマーさん）のご挨拶の言葉です。

この曲は「讃歌」「第九」「クリスマス・オラトリオ」に次いでボンマーさんとの4曲目の演奏となりました。「第九」以外の3曲はいずれもボンマーさんのご出身地であるライプツィヒに縁のある曲です。

合唱練習は今年1月に始まり、合唱指揮は長内勲先生、大嶋恵人先生、中原聡章先生で、

ラシック音楽の敷居の高さを取り払い、クラシック音楽の素晴らしさも伝える。これが今の自分の夢です。

それぞれの考えの元、曲を掘り下げていきます。長内先生は60ページにもなる資料（対訳、発音、演奏指示等）を用意して演奏の方向性を与えて下さいました。まだ生煮えの4月にボンマーさんが来札。約100分間、休憩なしでドイツ語のドイツシオンを交えての全曲練習。バッハが考えていたような曲を一緒に作ろうね、約束してね！と熱い練習を締め括られました。

そして、演奏会の週にボンマーさんの練習が始まりました。ピアノ伴奏で2日間、オケ合わせを2日間。難曲ということもあって異例の回数です。フィンガースナップで拍子を取り、「Basso」と歌いながら、この曲はもつと「jazzy」に！ コラールは暗い教会で楽譜にかじりついて歌うような平板な歌い方をしないで感情を込めて！ イエスを讃えるコラールは表現を分けて！

## 「ヨハネ受難曲」を歌い終わって

札幌トロンボーン副首席奏者  
中野耕太郎

と曲作りが続きます。演奏会の2日間を含めてボンマーさんのご指導でこの難曲を演奏できた幸せな一週間でした。

ボンマーさんはご挨拶の最後にごう付け加えられました。「もしかししたら、何年か後にまたライプツィヒに縁がある曲を演奏できるかもしれませんね。それはマタイ受難曲です」と。

御年83歳のボンマーさん、お元氣な姿をまた見せてください。

札幌合唱団員  
大久保尚史

## 「札幌くらぶ」への各種お問い合わせは下記へ

「札幌くらぶ」へのご質問や要望、住所の変更、入会、退会については、  
「札幌くらぶ事務局」宛に下記の方法で連絡をお願いいたします。

- (1) 郵 送: 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付
- (2) メール: [infomation@sakkyoclub.net](mailto:infomation@sakkyoclub.net)
- (3) FAX: 011-272-8552

※ 住所・氏名・会員番号・電話番号等の連絡先を明記してください

## スタッフの声

▼ヒタルができた時、定期演奏会をキタラと半々で聴けたらと願っていました。キタラの改修工事のおかげで来年だけは両方で聴けると思っっていたら、嬉しいことに次年度から定期のヒタルシリーズが始まること。札幌が誇る二つのコンサート会場で聴ける札幌。今から楽しみです。(定政)

▼今年は、札幌の南富良野公演と厚真公演に行つてみました。どちらも被災地の公演で、楽員も観客も暑い時期で大変だったと思っますが、大変良かったです。復興は時間がかかることですが、素敵な音楽でひと時の時間を癒されたことでしょう。(神)

▼神尾真由子さんと札幌のメンコンを久しぶりに聴き、精緻な演奏で感動的なコンサートでした。札幌10月定期では「ヨハネ受難曲」を初めて聴きました。札幌初演とのこと。オルガンの響き、札幌合唱団、ソリストたちの歌声、もちろん札幌も、どれも最高！(吉武)